

水辺のアート通信

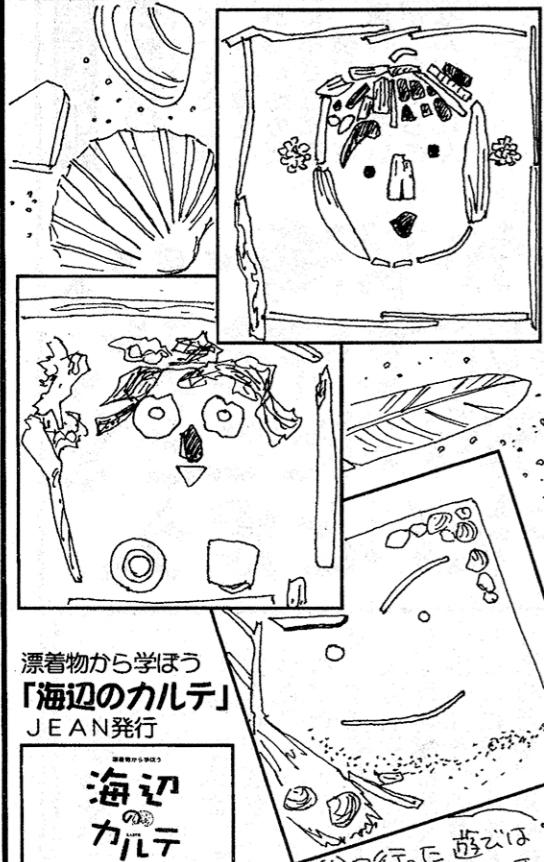
MIZUBE NI ASOBU KAI

No. 20

2004・夏の号

発行
水辺に遊ぶ会

大分県中津市中央町2-8-35
TEL&FAX: 0979-23-5320



漂着物から学ぼう
「海辺のカルテ」
JEAN発行

海辺
のカルテ

楽しく学べるアクティビティや資料が満載!
ワークブックと指導者用ガイドブック
2冊セットで3000円

平たくいって、楽しく遊びながら環境についてお勉強しましょ~! つていうことを制作。うちあがつたものたちを使って、「顔」を作、水辺に遊ぶ会ミュージアムにアップしているのでご覧あれ。みんな個性的な作、水辺に遊ぶ会ミュージアムにアップしてきました! 最後は感謝の気持ちを込めて「みぎ」のアートに挑戦したいゾ! なかの出来。今後も機会があれば、浜辺のアートに挑戦したいゾ!

浜辺のアート工房、はじめました。



No. 20

2004・夏の号

発行
水辺に遊ぶ会

大分県中津市中央町2-8-35
TEL&FAX: 0979-23-5320

▼「自慢じゃあないけど、水辺に遊ぶ会は発足以来5年間、雨に降られてインベントできなかつたことはありませんよお。ハッハッハッ♪」と某代表が豪語するだけあって、台風が中津を避けるようにして通り過ぎた6月12日。三百間の浜では、またまたアヤシゲな集まりが行われようとしていた。

▼本日のお客様はアズサセンセイ。オヒメサマのようなロングヘアのセンセは実は海の藻屑(じ)じゃないよ、漂着物のエキスパート。海岸にうちあがるブツを求めてバリバリと、日本は王チロン世界中の海を歩いている方なのだ!!

▼アズサセンセが見せてくださったものは、遠い小島に流れ着いたウルトラマン似の木の実や鎌倉時代のお馬さんの歯に始まり、弁当につきもののオサンカナ醤油入れまで種々様々。これで中津干潟のビーチコーナーの数は確実に増えるであろうと編集部は確信した! さて、お宝探見コーナーの後は海辺でアクティビティ。アクティビティと

なくはない。

アズサセンセの魅力にまつたのか、それとも海岸が宝の山に見えたのか? そアヤシイ干潟探検隊のメンバーの中にも海の漂着物をせつせと集める者も少なくはない。

■大新田の浜で拾ってきた不(ふ)りりり来月で1オ。アゲハを追って食べちゃうり、ゴキブリをいたぶつたりしてます。 目尻を下げて見てます。(あそだ)

■水辺に遊ぶ会の活動報告

(2004. 4. 1~2004. 6. 30)

- 2004. 4. 4 ポーイスカウト干潟観察会
- 2004. 4. 6 中津中央ロータリークラブ例会にて講演
- 2004. 4. 17 NHK取材協力
- 2004. 4. 18 大新田ビーチクリーン&漂着物調査 舞手川河口測量調査
- 2004. 5. 1~2 春のシギチドリ類調査
- 2004. 5. 2 干潟を守る日2004 中津干潟観察会
- 2004. 5. 5 北部小学校子供会 三百間浜ビーチクリーン参加
- 2004. 5. 11 舞手川現地調査・県土木事務所打ち合せ
- 2004. 5. 13 中津平成ロータリークラブ例会にて講演
- 2004. 5. 20 海と浜の歴史ヒアリング調査
- 2004. 5. 22 海と浜の歴史ヒアリング調査
- 2004. 5. 23 ごみゼロおおいた緊急会議
- 2004. 5. 27 中津民間保育園連盟研修会 干潟観察会
- 2004. 6. 4 小楠小学校4年生総合の学習の時間 干潟観察会
- 2004. 6. 6 舞手川河口測量調査
- 2004. 6. 9 中津市一般廃棄物最終処分場建設検討委員会出席
- 2004. 6. 11 中津川河口現地見学・山国川河川事務所打ち合わせ 中津中学校環境学習協力
- 2004. 6. 12 「砂浜で遊ぼう、漂着物から学ぼう」主催
- 2004. 6. 13 リフレッシュ瀬戸内 大新田ビーチクリーン&漂着物調査 ミニミニ学習会・救命救急講座
- 2004. 6. 16 中津民間保育園連盟秋の行事の下見参加
- 2004. 6. 21 中津の海と人の昔を語ろう会
- 2004. 6. 24 大分県立歴史博物館訪問
- 2004. 4. 8/10/17/25 2004. 5. 16 春のシギチドリ類調査

水辺に遊ぶ会2004年度の活動は「財団法人イオン環境財団」より一部助成を受けています。

■冷蔵庫の中に鎮座するブツに心を奪われてどのくらいの時間がたつただろ。食べるべきか、食べるべきか、それがあが問題だ! 真相は次号にて!(あそだ)



中津の海と人の昔を語ろう会

「水辺に遊ぶ会」の活動も6年目になりました。多くの方々と活動を行ったり、お話しをする中で、中津の海と浜の豊かな自然を守るためにには、私たちは、もっともっと海と浜のことを知らないといけないと感じています。遠い昔から、中津の人々が漁々と築いてきた海との関わりや自然観を知ること、そしてそれを伝えること、記録に残すことは、これからの中津の海と人の関係を探る上でとても大切だと思います。そんな思いから、中津の海のお話を様々な方面でご活躍の方に聞かせて頂いたり、皆で気軽に思い出話に花を咲かせたりできる場を設けることといたしました。

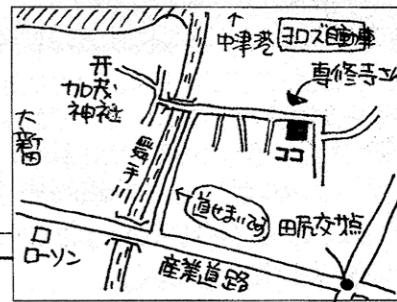
第2回は、西内久男さんに田尻の塩田のお話をうかがいます。当時使用していた道具も見せていただきます。ぜひ、海の話を楽しみに遊びにおいで下さい。

第2回 7月26日(月)

午後7時30分~9時30分

専修寺さん(田尻)にて

ゲスト 西内久男さん



アヤシイ干潟調査隊2004活動おしらせ

白鳥!! 忍耐!!

7月8月に干潟の調査が集中しています!
カブトガニの産卵調査・幼生調査・標識調査
舞手川河口の生物モニタリング・・・etc
興味のある方は是非! お手伝い下さい!

水辺に遊ぶ会MUSEUM

水辺に遊ぶ会ミュージアムは「建物のない博物館」です!

<http://www.geocities.jp/kabunkun/index.html>

ホームページものぞいてみたね!

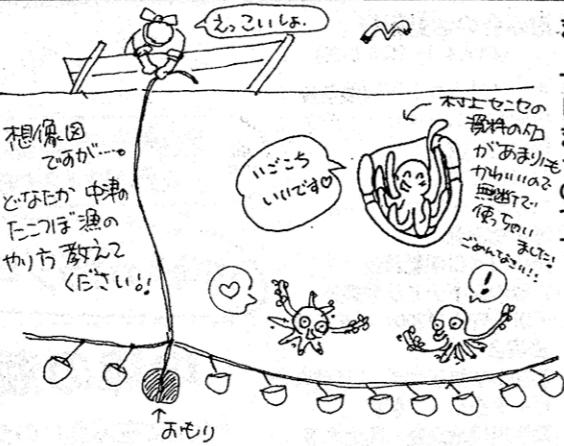
ご意見・ご感想など、みなさまの声をお待ちしています。
URL:<http://www.max.hi-ho.ne.jp/y-ashikaga/>
e-mail:mizube1999@yahoo.co.jp

たこつほ浪漫紀行!?

と訪ねた漁師さんが、沖で漁をしといるときに網にかかったものだといつて、大事そうに小さな蛸壺を見せてくださった。細川公の時代のものだという。海の中で長い時間眠っていたものが、私たちの目の前に突然現れるなんて、なんか浪漫! である。

だから浪漫!

である。



▼ということでお蛸壺である。妖しい千潟文化発掘隊の頼もし助つ人!(しかも大新田出身・貝掘り歴長し)の村上センセにお話を聞いた。

▼さかのぼること弥生時代頃から、海辺のムラでは、蛸壺漁が行われていたとか。行われていたってことは定留や野依地区で大規模な蛸壺の遺跡が発見されている。粘土質の土をこねて腕状にして、地面に並べて土をかけ、蒸しあがり。これに沈めると、あら不思議。何も知らないイイダコがつかまってしまうのです!

6/13 海辺の救命救急講座

初チャレンジの企画でした! 大分ライフセービングクラブのみなさんを講師にお迎えして、海で起こる事故とその対応について学習しました。参加者の感想も好評で、来年も何らかの形で企画したいと思います。

大分ライフセービングクラブのみなさん、ありがとうございました。



6/13 大新田ビーチクリーン

台風が来るゾ、来るゾと天気予報はかしましいにも関わらず東京からお招きした小島さん(JEAN全国事務局長)は鉄の晴れ女と自称してはばからぬキャリアの持ち主。勿論晴れましたね!

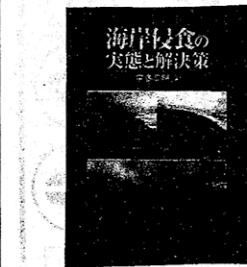
目立つごみは少なくなったとは言えやはり出ました、2.1トン。

今回は瀬戸内海の路ネットワーク協議会の持ち回り行事を中津市さんと共に受けました。日頃から気になりながらも力不足で対応できなかつた地点のごみを集中的に収集できました。みなさま、ご協力ありがとうございました。

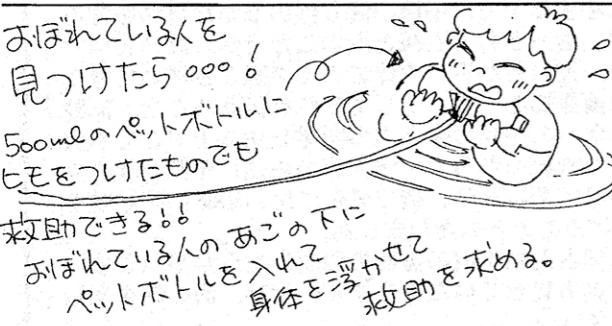
今後もよろしくお願ひいたします。

▼ううーん、なんだか楽しくなってきたゾ! ということで妖しい千潟文化発掘隊は闇雲に海と浜の郷土史に向かって突き進むのだ!! と力んでいるが、隊長・副隊長もにかなりの方向音痴。まつすぐ進むためにも隊員を募集中なのだ。

宇多センセイの本紹介
むすかしいよ! カクゴして読もう!



海岸侵食の実態と解決策
宇多高明著 山海堂 ¥3500



救助ができるよ!
あればいい人のあごの下に
ペットボトルを入れて
身体を浮かせて
救助を求める。

きらきら光る故郷の豊かな海。。。自分たちの想いの拠り所を守ろうと、汗を流した先人たちがいたことを心の奥に刻んでおきたいと思う。

「ハマボッス?」と、妻は初めて耳にする草花の名を聞き返した。大分と福岡の県境を流れる山国川が周防灘に注ぐ河口は私と妻と五匹の犬たちの散歩コースで、季節ごとに咲く草花も知悉しているつもりだが、川面に降りる石だらけの傾りに咲いているハコベやミニナグサに似た感じの白い小花は、いつしかそんな地味な草花をおぼえていて、初対面の場でもその名を漫然と見ることができた。野草図鑑、対面で名を告げられた草花も、うれしいのではあるまい。

(02年5月19日付 大分合同新聞より一部抜粋)

松下さんの野草に対する関心の深さを知ったのは、「松下竜一の仕事」全集刊行記念の文学展の時だった。松下さんは野草が好きだから会場いっぱいに大小の花器を置き思いつきり野草を挿そうや、というアイデアが出た時だつた。その後私は中津千潟の保全活動を始め、(三百間の浜でハマボックスを見ましたよ)と松下さんに言つたら、本気な顔でへえとういう表情を見せたので得意になつた。

松下竜一さんとの関わりはその著作を通じて根拠を読みとり学び続ける限り、消えることはないだろう。そこにはいる人だつた。松下竜一さんとの冥福を心よりお祈り申し上げます。



ハマボッス・消えた白い小花 松下竜一さんのこと。

初期の小説「潮風の町」にも、この河口近くに住む松下さんの極私的な生活のありさまが小動物や草花、風景を細かな観察をもとに記録されている。福岡県豊前市の火力発電所建設反対闘争で環境権を提案したことから知られている松下さんは強靭な記録作家としての一面と同時に、澄みきつて叙情的な感性で風景描写を伝える作品も多い。

中津千潟の環境を心配して集まつた頃、「千潟の良さを出来るだけ沢山の人々に知つてもらう努力を先にしなさい」と助言してもらつた上、ちつぽけなグループに過ぎない私達が初めて開いた講演会で明神の浜での経験を語ってくれた。松下竜一としての態度を明確に示して

松下竜一の関わりはその著作を通じて根拠を読みとり学び続ける限り、消えることはないだろう。

松下竜一さんとの冥福を心よりお祈り申し上げます。



トシ子おばさんと思ひ出を語る
私の大新田時代 (その九)
4. 心に残つてゐる行事

新田のほぼ中央に白髭神社と日蓮宗の寺院秋月寺がある。冬になると秋月寺の信者が住職を先頭にうわ太鼓をたたきながら、寒い夜道をお題目をとなえて歩く修業。大人の女性が多く参加していたが、太鼓の音が遠くから聞こえだんだん近づいてくると、心がふるえるような感動を覚えたもので母は殆ど毎年参加していた。

別の寒行の一つに極寒の冬、道路の両側の家の前に冷たい水をいっぱい張った桶やバケツを並べてある中桶の水を順々にざんぶ、ざんぶとくぶりながら走る。凍つつくような寒い季節の荒行である。

八十年近い前のことですから、記憶も定かでないが思い出すままを書きました。大正時代の田舎の様子を書いた本人でさえ、ずい分変わったなーと驚くばかりです。一世紀近く、世の中変わらなかつたらおかい声で題目を唱えながら備えてある太鼓をたたきながら走る。冬になると太鼓の音が遠くから聞こえだんだん近づいてくると、心がふるえるようになります。これから先は又以前にもまして急ピッチで変化して行くことでしょうが、とにかく幸せにならざるような時代、孫や子供が明るく生きられる時代が来ることを願わずにはいられません。

※この連載は今号で終わりです。
ご声援ありがとうございました。